

1. もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。(15:18-19)
 - a. この世はイエスとともに歩み神に従おうとする者を憎む。この世は、この世のシステムを受け入れた者と、この世の支配者（サタン）を礼拝する者（意識的、無意識的にかかわらず）で成り立っている。現在サタンはその性質と目的を反映するためこの世の微調整をしている。あらゆる集団、組織、文化においてサタンは自分を礼拝し神を拒絶する世界を創り出そうとしている。
 - b. この世（現在クリスチャン信仰をもっていない人すべてを含むわけではない）はクリスチャンを憎んでいる。それは私たちがこの世ではなく別の世に属しているからである。2つの世界は価値観や信じているもの、行動が完全に敵対している。イエスはこの地上のものとはまったく違う王国を携えて来られたのである。
 - c. 私たちがクリスチャンになると、永遠のいのちをイエスにゆだねるだけでなく、敵地にありながら新しい存在へと創り変えられ、別の都市の市民となり、天国の使者となる。私たちはこの世に生まれながら神によって選び出され超自然的に別の世界に生まれ変わったのである。
2. しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。(15:20)
 - a. 個人的な欠点のためにあなたのことを好まない人と、イエスとともに歩んでいるためにあなたを憎み迫害する人の間には違いがある。イエスご自身の生涯でも、イエスのもとを離れただけで迫害はしなかった人たちがいたのを覚えておられるだろう。ただイエスを拒否しただけで憎んだり迫害しなかった人たちはたくさんいた。私たちがこの世に生きる時も同じような経験をするだろう。拒絶するが特に悪意があるわけではない、という人たちである。
 - b. また、私たちがあまりにもこの世に染まっているために特に憎んだり迫害したりしない人たちにも間違いがある。私たちは憎まれたり迫害されたりするのを避けるためこの世的になりすぎる傾向がある。この世の価値観や信条を受け入れ、開いていない目を罪に向け、好ましくない状況の中で愛想よく生きている。この間違いの重大な危険性は私たち個人がこの世の支配者に好きなようにさせているだけでなく、私たちや家族、友人、教会にまでその悪影響を及ぼしてしまっていることである。
3. しかし彼らは、わたしの名のゆえに、あなたがたに対してそれらのことをみな行います。それは彼らがわたしを遣わした方を知らないからです。もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。しかし今では、その罪について弁解の余地はありません。(15:21-22)
 - a. イエスのこの地上での使命はこの世を贖うことだけでなくこの世の支配者に警告を与えることでもあった。律法がなくしてそれを破ったものに対してとがめることができない。罪を指摘しそれがどういふものであったか向き合うことなしには罪を罰する意味がない。イエスは確かな証拠とともにいのちとまことをもって来られたので、彼を拒否した者の罪については弁解の余地がない。
 - b. ここでいう「彼ら」とは誰なのか。文脈から、イエスを拒否しただけでなくつねにイエスとその信者たちを憎み迫害する者たちのことであろう。
4. わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいるのです。もしわたしが、ほかのだれも行っただけのわがやを、彼らの間で行わなかったのなら、彼らには罪がなかったでしょう。しかし今、彼らはわたしをも、私の父をも見て、そのうえで憎んだのですこれは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。(15:23-25)
 - a. 人々が理由なしにあなたのことを憎む時がくるので心しておいたほうが良い。サタンは社会のあらゆる分野でそのようなシステムを作り出し、それはどんどん広がりつつある。イエスを信じイエスに従う者として、私たちのうちに宿る聖霊の力と助けを借り、罪に対して立ち向かいはっきりと主張できる知恵、識別力、勇気をもつようにしたい。